

策書



學問のすゝめ



全

學問のすゝめ



福澤 諭吉

小幡篤次郎

同著



一天ハ人の上ヨ人を造ルむ人の下ヨ人を造ルむと以
ヘリさまバ天より人を生するヨハ萬人ハ萬人皆同
ト位ヨして生をるガク貴賤上下の差別なく萬物の
靈た身と心との働を以て天地の間ヨあるとらづ

の物を資り以て衣食住の用を達し自由自在互は人の妨をあたむして各安樂は此世を渡らしめ給ふの趣意かりさまども今廣く此人間世界を見渡すまかしこき人ありたろかなる人あり貧しきもあり富めふもあり貴人もあり下人もありて其有様雲と坩との相違あるは似たふハ何ぞや其次第甚と明まり實語教は人學をざむ智なく智なき者ハ愚人ありとありさまを賢人と愚人との別ハ學ぶと學むざると

二

は由て出来るものなり又世の中はむつかしき仕事もありやすき仕事もあり其むつかしき仕事をする者を身分重き人と名づちやすき仕事をする者を身分輕き人と以ふ都て心を用ひ心配する仕事ハむつかしきして手足を用る力役ハやすし故は醫者學者政府の役人又ハ大なる商賣をする町人夥多の奉公人を召使ふ大百姓おどハ身分重くして貴き者と以ふべし身分重くして貴きもハ自か其家も富て下

三

々の者より見をむ及ふをらざるやうなれども其
本を尋むハ唯其人ハ學問の方あるとあきとよ由て
其相違も出来たるのこよて天より定たる約束はあ
らむ諺は云く天ハ富貴を人ハ興へむしてこそを其
人の勸は興るものなりとされむ前も云へる通り
人ハ生をあぶらよして貴賤貧富の別あるハ唯學問を
勤て物事をよく知ふ者ハ貴人となり富人となり無
學なる者ハ貧人となり下人となるあり

四

一學問とハ唯むつかしき字を知り解し難き古文を讀
み和歌を樂み詩を作るあど世上ハ實のなき文學を
いふはあむむこも等の文學も自うた人の心を悦ば
しめ随分調法あるものなれども古來世間の儒者和
學者るどの申すやうさまであがめ貴むをきものよ
あらむ古來漢學者ハ世帯持の上手なる者も少く和
歌を多くして商賣ハ巧者ある町人も稀なりこそが
ため心ある町人百姓ハ其子の學問ハ出精するを見

五

てやがて身代を持崩すからんとて親心は心配する者あり無理な事となり畢竟其學問の實は遠くして日用の間ふ合てぬ證據ありされハ今斯も實なき學問ハ先づ次より專ら勤むるべきハ人間普通日用に近き實學なり譬へハいろは四十七文字を習ひ手紙の文言帳合の仕方算盤の稽古天秤の取扱等を心得尚又進て學ぶるべき箇条ハ甚多し地理學とは日本國中ハ勿論世界萬國の風土道案内あり究理學とは

天地萬物の性質を見て其働を知る學問あり歴史とは年代記のくわしき者よて万國古今の有様を詮索する書物あり經濟學とは一身一家の世帯より天下の世帯を説きたるものあり修身學とは身の行を脩め人よ交り此世を渡るべき天然の道理を述べたるものあり是等の學問をするよ何も西洋の翻譯書を取調へ大抵の事ハ日本の假名よて用を便し或ハ年少よして文才ある者へハ横文字をも讀ませ一科一

學も實事を押へ其事は就き其物は従ひ近く物事の
道理を求て今日の用を達す處きあり右ハ人間普通
の實學よて人たる者ハ貴賤上下の區別なく皆悉く
たゞるむ處き心得なれハ此心得ありて後は士農工
商各其分を盡し銘々の家業を營み身も獨立し家も
獨立し天下國家も獨立す處きなり

八

一學問をすするよハ分限を知る事肝要なり人の天然生
を附ハ繋かまらず縛らまらず一人前の男ハ男一人前の
女ハ女よて自由自在なる者なまども唯自由自在と
のこ唱へて分限を知らざまば我儘放盪は陷ふこと
多し即ち其分限やは天の道理は基き人の情は従ひ
他人の妨を為さむして我一身の自由を達すふこと
あり自由と我儘との界ハ他人の妨を為すと為さざ
ふとの間はあり譬へハ自分の金銀を費して為すこ
とをまむ假令ひ酒色は耽り放盪を盡すも自由自在
なる處きは似たまども変して然らず一人の放盪ハ

九

諸人の手本となり遂に世間の風俗を亂りて人の教に妨を為すがゆゑに其費す所の金銀ハ其人のものたりとも其罪許すをうらず又自由獨立の事ハ人の一身に在るのみならず一國の上にもあることなり我日本ハ亞細亞洲の東に離きたる一個の島國にて古來外國と交を結むず獨り自國の産物のみを衣食して不足と思ひしこともあかりしが嘉永年中アメリカ人渡來せしより外國交易の事始り今日の有様

よ及びしことよて開港の後も色々議論多く鎖國攘夷あどやうましくいひし者もありしうども其見る所甚と狭く諺にいふ井の底の蛙よて其議論取るよ足らぬ日本とても西洋諸國とても同し天地の間よありて同し日輪よ照らすま同し月を朧め海を共よし空氣を共よし情合相同しき人民あるをむ出よは餘ふものハ彼よ渡し彼よ餘るものハ我よ取り互よ相教へ互よ相學び耻ることもなく誇ることよな

く互は便利を達し互は其幸を祈り天理人道は従て
互の交を結び理のためはハアフリカの黒奴をも恐
入り道のためはハ英吉利亞米利加の軍艦をも恐
む國の耻辱とありてハ日本國中の人民一人も殘
ず命を棄てし國の威光を落さざるこそ一國の自由
獨立と申す迄きなり然るを支那人あどの如く我國
より外は國なき如く外國の人を見ればひこくち
夷狄々々と唱へ四足よてあるく畜類のやうは出
を賤しめ出を嫌ふは自國の力をも計らざして妄
は外國人を追拂てんとし却て其夷狄は窘めらるる
あどの始末ハ實は國の分限を知らざ一人の身の上
よて云へむ天然の自由を達せざして我は放盪は陷
ふ者と云ふる王制一度新なりしより以來我日本
の政風大は改り外ハ萬國の公法を以て外國は交り
内ハ人民は自由獨立の趣旨を示し既は平民へ苗字
乘馬を許せしが如きは開闢以來の一美事士農工商

く互は便利を達し互は其幸を祈り天理人道は従て
互の交を結び理のためはハアフリカの黒奴をも恐
入り道のためはハ英吉利亞米利加の軍艦をも恐
む國の耻辱とありてハ日本國中の人民一人も殘
ず命を棄てし國の威光を落さざるこそ一國の自由
獨立と申す迄きなり然るを支那人あどの如く我國
より外は國なき如く外國の人を見ればひこくち
夷狄々々と唱へ四足よてあるく畜類のやうは出
を賤しめ出を嫌ふは自國の力をも計らざして妄
は外國人を追拂てんとし却て其夷狄は窘めらるる
あどの始末ハ實は國の分限を知らざ一人の身の上
よて云へむ天然の自由を達せざして我は放盪は陷
ふ者と云ふる王制一度新なりしより以來我日本
の政風大は改り外ハ萬國の公法を以て外國は交り
内ハ人民は自由獨立の趣旨を示し既は平民へ苗字
乘馬を許せしが如きは開闢以來の一美事士農工商

四民の位を一様とするの基は、は定りたりと以ふ
をきりさむ今より後ハ日本國中の人民は生を
おぼら其身は附たる位るど、申すハ先づなき姿は
て唯其人の才徳と其居処とは由て位もあるものあ
り譬へも政府の官吏を粗略よせざるハ當然の事な
れども出ハ其人の身の貴きはあらむ其人の才徳を
以て其役義を勤め國民のためは貴き國法を取扱ふ
がゆへは出を貴ぶのこ人の貴きはあらむ國法の

貴きるり旧幕府の時代東海道は御茶壺の通行せし
ハ皆人の知る所るり其外御用の鷹ハ人とりも貴く
御用の馬は往來の旅人も路を避る等都て御用の
二字を附まば石よても瓦よても恐ろしく貴きもの
のやりは見へ世の中の人も數千百年の古より出れ
を嫌ひながら又自然は其仕來は慣を上下互は見苦
しき風俗を成せしとあまども畢竟是等ハ習法の
貴きよもあらむ品物の貴きよもあらむ唯徒は政府

の威光を張り人を畏して人の自由を妨げんとする
卑怯ある仕方にて實るべき虚威といふものなり今日
に至りてハ最早全日本國內は斯る淺まき制度風
俗ハ絶ておき苦なまば人々安心いたしかりりめよ
も政府は對して不平を抱くことあつたばおれを包こ
かくして暗は上を怨むるおとなく其路を求め其筋
は由り靜は心を訴て遠慮おく議論すべし天理人
情はさへ叶ふ事ならも一命をも抛て争ふべきあり

是即ち一國人民たゞ者の分限と申すものあり

一前条は以へる通り人の一身も一國も天の道理は基
て不羈自由なるものなまハ若し此一國の自由を妨
げんとする者あらば世界萬國を敵とす事も恐るし
は是れ此一身の自由を妨ぎんとする者あらむ政
府の官吏も憚るは是れ此一身の自由を妨ぎんとする者あらむ政
等の基本も立ちしことなまハ何をも安心いとし唯
天理は從て存分は事を為す處しとハ申すべし凡そ

人たる者ハ夫々の身分あるをバ亦其身分は従ひ相應
の才徳あるを處りて身は才徳を備んとするはハ
物事の理を知らざるを處らむ物事の理を知らんと
するはハ字を學むざるを處らず是即ち學問の急務
なるに記るり昨今の有様を見れば農工商の三民ハ其
身分以前は百倍にやがて士族と肩を並ぶの勢に至
り今日ふても三民の將は人物あるをバ政府の上は採
用せらるべき道既に開けたることあるをバよく其身

分を顧み我身分を重きものと思ひ卑劣の所行ある
を處らむ尤も世の中は無知文盲の民不憐むを處く
亦惡むを處きものハありて智恵ある極ハ耻を知り
ざるに至り己が無智を以て貧窮は陥り飢寒は迫る
ときハ己が身を罪せずして妄に傍の富むる人を怨む
甚しきハ徒黨を結び強訴一揆などして乱城は及ぶ
處もあり耻を知らざるをやはせん法を恐るるをや
以てあん天下の法度を頼て其身の安全を保ち其家の

渡世を以たりおがし其頼む所のを頼て己が私欲
の爲はハ又こを破る前後不都合の次第るはずや
或ハたまゝ身本慥はして相應の身代ある者も金
錢を貯ることを知りて子孫を教ふことを知らず教
へざる子孫なをも其愚るも亦怪むは足らず遂は
ハ遊惰放盪は流を先祖の家督をも一朝の煙とるす
者少らざる斯る愚民を支配するはハ逆も道理を以
て諭すべき方便なければ唯威を以て畏すのみ西洋

の諺は愚民の上は苛き政府ありとハ其の事ありこ
は政府の苛きはあらむ愚民の自かす招く災あり愚
民の上は苛き政府あるを良民の上はハ良き政府あ
るの理なり故は今我日本國はおわても此人民あり
て此政治あるあり假は人民の徳義今日よりも衰へ
て尚無學文盲は沈む出とあつた政府の法も今一段
嚴重なるを若く又人民皆學問は志して物事の
理を知り文明の風は赴く出やあらば政府の法も尚

又寛仁大度の場合も及ぶ處に法の苛きと寛やうな
ふとは唯人民の徳不徳も由て自かゝ加減あるのみ
人誰か苛政を好て良政を惡む者あらん誰か本國の
富強を祈らざる者あらん誰か外國の悔を甘んぢる
者あらん是即ち人たる者の常の情なり今の世は生
を報國の心ありん者も必むしも身を苦くし思を焦
すほどの心配ありはあらず唯其大切なる目當は去
の人情も基きて先づ一身の行ひを正し厚く學ぶ志
し博く事を知り銘々の身分は相應す處きほどの智
徳を備へて政府ハ其政を絶すも易く諸民ハ其支配
を受て苦くおきやり互は其所を得て共は全國の大
平を護らんとすふの一事のみ今余輩の勸む學問も
専ら出の一事を以て趣旨とせり

端書

此度余輩の故郷中津は學校を開くは付學問の趣意を
記して旧く交りたる同郷の朋友へ示さんがため一冊
を綴りしつゝ或人其を見て云くこの冊子を獨り中
津の人へのみ示さんより廣く世間へ布告せば其益も
亦さかるべしとの勸は由り乃ち慶應義塾の活字版を
以てこれを摺り同志の一覽は供ふるなり

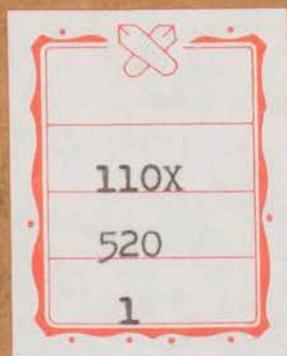
明治四年

未十二月

福澤 諭吉

小幡篤次郎

記



110X

520

1